



迎春

平成28年
2016

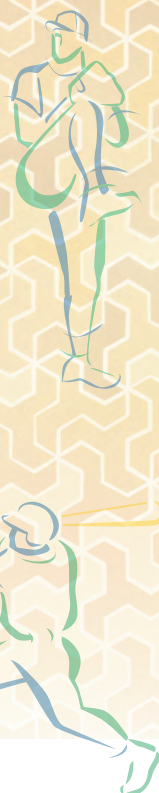
プロ野球広島東洋カープ元監督
古葉竹識さん

多田区長

江戸川区球場にて

プロ野球チーム「広島東洋カープ」の選手・監督として活躍され、球団史上初のリーグ優勝や3回の日本シリーズ制覇へとチームを導き、赤ヘル軍団の黄金期を築いた名将・古葉竹識さん。野球への情熱はまだまだ冷めることなく、毎年、江戸川区で少年野球の世界大会を開催し、野球を通して青少年の健全育成・国際交流に尽力するなど、幅広く活躍されています。今回は古葉監督をお招きし、野球でのご自身の体験やこれからの夢などを語っていただきました。

「耐えて勝つ」
大いなる夢・希望に向かって



世界各国の野球少年が 江戸川区に集結！

区長 あけましておめでとうございます。

古葉 おめでとうございます。

区長 本日は古葉監督をお招きし、野球に関わるお話をたくさん伺おうと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

古葉 こちらこそ、よろしくお願いいたします。江戸川区には大変お世話になっておりまして、毎年7月に江戸川区球場と臨海球技場をお借りして「少年軟式野球世界大会」を開催しています。世界各国の子どもたちは日本で、そして江戸川区で野球ができることを喜んでいます。

区長 こちらこそ、江戸川区の球場で世界大会を開催していただき大変光栄です。大会の主催者である少年軟式野球国際交流協会の理事長に就任されていますが、何年たちますか。

古葉 プロ野球の横浜大洋ホエールズ（現・横浜 DeNA ベイスターズ）監督を退任した翌年の、平成2年3月からです。もう25年たちますね。

区長 縁があって、理事長に就任された年から江戸川区で大会を開催してくださっています。大変素晴らしい大会で、多い時には20カ国を超えるチームが参加していますよね。江戸川区の代表チームも出場させていただいています。

古葉 いろいろな国から選手が来てくれることがとてもうれしいですし、子どもたちの一生懸命な姿を見ていると目頭が熱くなります。

区長 そうですか。いつも感じるのは野球が好きな子どもたちが世界中にいるということです。私たちのころには考えられませんでした。今の子どもたちが幸せだと思うのは、各国の野球仲間と同じ舞台上で試合ができることです。古葉監督は、「野球」という共通言語で子どもたちを育てようという尊いお気持ちで取り組んでいた

だいているのでしょうか。

古葉 協会の基本理念でもある、「軟式野球を通して小・中学生の健全育成と国際交流を図る」ことがわれわれの願いです。世界の子どもたちとの交流を深めながら、「勇気」「感動」「自立」



（2面へつづく）

球道一心で邁進した人生 これからも、生涯野球人として歩み続ける



こば たけし
古葉竹識さん

昭和11年熊本県生まれ。熊本県立清々麓高校～専修大学（中退）～日鉄二瀬を経て、同33年広島カープ入団。ベストナイン（1回）、盗塁王（2回）などショートのレギュラーとして活躍。同45年南海ホークスに移籍し、翌年現役を引退。同47・48年南海、49年広島でコーチを務め、50年開幕後に広島監督に就く。監督在任11年間で、リーグ優勝4回、日本一3回。同62年～平成元年横浜大洋ホエールズ監督。平成2年から公益社団法人少年軟式野球国際交流協会理事長。同11年野球殿堂入り。同20年から東京国際大学硬式野球部監督（現・名誉監督）。

（1面からつづく）
を持ち合わせた国際人を育てたいという思いがあります。
区長 子どもたちにはそうした感覚を養ってほしいですね。監督のような実績を持った方が運営をしてくださっていますから、何も心配ないですね。
古葉 江戸川区をはじめ、多くの皆さんのご支援でこうした大会ができるのです。もう感謝の気持ちでいっぱいです。
区長 今年、34回を迎えますが、5年ごとの記念大会では秋篠宮ご夫妻にもお成りを賜り、ごあいさつや始球式などをしていただいています。そのような大会を江戸川区で開催できるのは光栄です。
古葉 35回の記念大会には、またお招きしたいと思っています。
区長 秋篠宮さまがいらっしゃるときには、スタンドから始球式を行っていただきますが、それ以外では、私が始球式をやらせていただいています。
古葉 私がキャッチャーでね。区長が投げている



①世界各国の子どもたちと笑顔でふれあう古葉監督／②秋篠宮さまによる始球式と笑顔で見つめる紀子さま（平成6年）／③選手たちの熱い視線を受け多田区長が始球式

球種はスライダーですか？

区長 あれはフォークボールですよ（笑）。実は私、始球式にはこだわりがあって、必ずマウンドの上から投げているのです。

古葉 そうです、ピッチャーズ・プレートから。

区長 関係者の方から、「もう少し前から投げたらいかがですか？」と勧められることがあります。

でも古葉監督は、「マウンドにこだわる気持ちが大切です」と、励ましてくれたことがあります。

古葉 実際、あの位置から投げているのですからすごいことだと思いますよ。いつまでもこだわってほしいですね。

野球と出会い、恩師に導かれ、憧れのプロの世界へ

区長 古葉監督が野球を始めたのはいつごろからですか。

古葉 戦争が終わって間もない小学3年生のころです。先輩たちから三角ベースに誘われたのがきっかけでした。

区長 道具はそろっていたのですか。

古葉 自作の粗末なものばかりでしたが、野球ができればそれだけで幸せでしたね。5年生の時に市内の大会で優勝し、地元の新聞が「“豆ジープ”大活躍！」と私のことを書いてくれたのです。

区長 豆ジープ？

古葉 小さな体で足が速かった姿を、ちょこちょこ動き回る“進駐車のジープ”に例えたのです。

区長 なるほど。優勝して新聞に載るということは、皆さん相当上手だったのですね。お母様があの野球好きだったと伺いましたが。

古葉 野球が好きというよりも、私のことを見に来ていたのだと思います。小学生のころは必ず試合を見に来てくれました。チャンスでバッターボックスに入ると大声で、「たけし～、あんたここで打たんと勝てんバイ」と、熊本弁で応援するのです（笑）。

区長 いつも大きな力をもらっていたのですね（笑）。しかし、そんなお母様も家庭の事情で大変苦労なさったようで。

古葉 私が高校2年生の時に父が亡くなりました。大黒柱を失い、母が内職で家計を支えてくれました。父の遺志もあり、母も大学進学を望んでくれていましたが、苦労を背負った母を見て悩みました。そんな折、学費・寮費免除の特待生扱いで、専修大学が声を掛けてくれたのです。

区長 それならお母様に迷惑を掛けずに野球を続けられますね。

古葉 しかし、大学1年生の夏休みに実家に戻った私が目にしたのは、私の生活費を送るために夜遅くまで内職をしている母の姿でした。「これ以上、迷惑を掛けられない。大学をやめよう」と思いました。そんな私に、帰省中に顔を出していた母校の野球部で、人生を変える出会いがあったのです。

区長 それはどなたですか？

古葉 福岡県の社会人野球の強豪チーム「日鉄二瀬」の濃人渉監督です。高校時代から憧れていた監督で、この方に鍛えてもらえれば絶対にプロに行けると思いました。そこで、東京に戻って4年生のマネジャーに事情を話したところ、猛反対されましたが、最終的には納得してくれました。濃人監督にお会いしていなければ、プロになることは絶対になかったと思います。また、広島カープ（現・広島

東洋カープ）の入団を助めてくれたのも濃人監督でした。

区長 運命的な出会いによって、今の古葉監督があるんですね。

古葉 そうかもしれませんね。

運命の監督就任、弱小チームを「常勝・赤ヘル軍団」へ

区長 私たちの世代ですと、古葉監督の現役時代の活躍もさることながら、やはり監督時代の功績が印象に残ります。カープの監督といえば古葉さんというイメージがあり、知らない方はいないと思います。

古葉 ありがとうございます。

区長 入団は巨人の長嶋茂雄さんと同期でしたね。

古葉 そうです。長嶋さんには現役・監督時代共に、良い思い出をたくさんつくっていただき感謝しています。一度だけ首位打者争いもしました。



ホテルシーサイド江戸川にて

監督になった年（昭和50年）も偶然一緒です。

区長 そうでしたか。監督就任はシーズンの途中だった覚えがあります。

古葉 就任する直前の3年間は連続最下位で、毎年監督も替わっていました。前任は外国人の監督でしたが、シーズン早々、判定を巡って審判に抗議し、試合をボイコットする騒動を起こして、その後辞任しました。その時、球団代表に呼ばれ、「チームを助けてと思って監督を引き受けてくれ」と言われたのです。

区長 思わぬ形での就任要請でしたね。

古葉 当時私は、コーチ3年目を終えたところでしたので、まだコーチとしての勉強が残っているという気持ちが強くありました。しかし一晩考え抜き、「誰かがやらないといけない。ファンを喜ばせなくては」と、決意を固めました。シーズン途中の交代劇でしたが、選手たちが頑張ってくれたおかげで、球団創設26年目で初優勝を飾ることができました。

区長 シーズン途中からの指揮にも関わらず、その年に優勝、しかも今まで優勝経験のないチームが…信じられません。一方、長嶋さん率いる巨人は球団創設以来、初の最下位でした。

古葉 優勝を決めた試合は巨人との一戦で、負ければ中日との最終戦までもつれ込む展開でした。最終戦となれば選手に硬さが生まれ、本来の力が発揮できないことも考えられます。ですから、その前に勝ててホッとしました。

（右上へつづく）

好きなことに打ち込む情熱と使命感が 人生を切り開き、人々に感動を与える

（左下からつづく）

区長 当時のカープファンは皆、大喜びだったのではないですか？

古葉 レフトスタンドにいた大勢のファンがグラウンドに飛び降りてきて、一緒に胴上げをしてくれました。あまりの人の多さにびっくりして、「もう降ろしてくれ」と言ったのを覚えています。

区長 そうでしたか。私は巨人を応援していたので残念でしたけれど（笑）。運命の監督就任以降、大変な思いや苦労をされて、初の栄冠を勝ち取った手腕は素晴らしい一言に尽きます。カープ監督在任11年間で、4回のリーグ優勝、3回の日本一という輝かしい成績を残されました。

古葉 セントラル・リーグで連続日本一を達成しているチームは、カープが成し遂げた昭和54・55年以降ありません。そういう意味では、良い結果を残せたと思っています。

区長 古葉監督は、平成11年に野球殿堂入りもされていますね。

り見えるのです。しかも、ベンチに戻ってきた選手を叱るためのベストポジションでしたし（笑）。今の監督たちを見ると、ベンチの真ん中に座っていたり、腕を組んでただ見ていたりしているので、不思議だなあと思うことがあります。選手のプレーをしっかり見るのは監督の責任ですし、勝敗がかかっていますので、ベンチにドカッと座っているつもりはありませんでした。

区長 ベンチで選手を見つめる表情はとても優しかったですね。

古葉 そうでしたかね。でも、選手には「監督は二重人格だ！」と言われていました。

区長 二重人格？ 見えないところで、鬼軍曹になっていたのですか。

古葉 選手が思いもしないミスをすれば、頭に血が上りますよ（笑）。私は選手に「プロとして評価してもらうには、一つ一つのプレーを大事にしないさい」と厳しく言っていました。なぜなら、プロとして長く活躍するには、やるべきことを必死でやらなければいけないからです。その思いが強過ぎたでしょうね。

区長 しかし、そのおかげで「常勝・赤ヘル軍団」と呼ばれるようになり、強いカープというイメージが定着しました。やはり、勝ち続けるためには戦力を整える必要があります。そしてそれを高めていくことが、監督をはじめとするスタッフの使命であり、その責任は重いと思います。これは、企業や役所でも同じことがいえます。組織力をどう活かして、機能させるのか。大変難しいことだと思いますが、チーム全員がその自覚を持たないといけませんよね。

古葉 控え選手には、「全員で野球をしている意識を持って。ベンチでは、試合や相手選手の動きに目をそらさず集中し、いつでもすぐに出られるように準備しなさい」と、よく言っていました。

区長 そうですか。古葉監督の選手起用の中で、昭和54年、連続フルイニング出場の記録達成が間近に迫っていた衣笠選手をスタメンから外すという決断がありましたね。

古葉 衣笠はその年、極度の打撃不振で、守備にまで影響が出ていました。カープは初優勝の後、3年続けて優勝を逃しました。そのため、この年に優勝できなかったら、監督を辞める覚悟でした。ですから、チームの勝利を優先することが当然だと思い、初めてスタメンから外しました。

区長 監督にとっては選手個人の記録を伸ばしてあげることも大切です。しかし、チームが低迷していれば采配を立て直すことが使命であり、妥協しない采配や苦渋の決断が求められます。

古葉 本人の記録更新に対する意識は、とても強いものでした。ただ、連続フルイニング出場は途



江戸川区長 多田正見

絶えても、連続試合出場だけは続けてほしかったので、数試合は途中出場で起用しました。その間の彼の練習姿勢には鬼気迫るものがありました。スタメンに復帰後は見違えるように打ち始め、リーグ優勝、日本一に貢献してくれたのです。

古葉野球の神髄を 大学野球で教え、伝える

区長 古葉監督の生き方そのものを象徴している言葉といわれ、ご自身の座右の銘にもされている「耐えて勝つ」。この言葉の意味は何ですか。

古葉 初優勝は、さまざまな試練や困難に耐えてつかんだものでした。その時、新聞記者の皆さんが「監督、耐えて、耐えて、耐えて勝ちましたね。今回のことを本にしたらどうですか？ タイトルは『耐えて勝つ』がいいですよ」と勧めてくれたのです。

区長 そうでしたか。

古葉 選手たちが本当に頑張ってくれましたからね。「耐えて勝ったのは俺たちだ！」という声があったほどですから（笑）。

区長 この言葉は戦いで得た教訓ですね。ところで、古葉監督は平成20年から東京国際大学の野球部で監督をされていますが、やはりこういった考え方を踏襲して指導されているのですか。

古葉 もちろんです。私にできることは、今まで野球を通じて学んだことを伝えていくだけですし、

（4面へつづく）



①高校2年生のころ（前列左から2人目）／②カープ現役時代／③昭和50年リーグ初優勝／④昭和59年3回日の日本シリーズ制覇／⑤平成11年野球殿堂入り（写真提供）⑥熊本日日新聞社、⑦中国新聞社、⑧野球殿堂博物館



創部47年目、悲願のリーグ初制覇！ 監督としてプロと大学の両方で優勝したのは古葉監督が初めて（写真提供 東京国際大学）

（3面からつづく）

教えるのは「基本」です。その成果は、就任4年目の平成23年に表れました。開幕戦から耐える試合が続きましたが、創部47年目で東京新大春季リーグ戦で初優勝を果たしました。さらに、リーグ代表で初出場した全日本大学選手権大会でも、苦戦を強いられましたが、ベスト4の成績を勝ち取ることができました。

区長 まさに「耐えて勝つ」を体現した快進撃だったのですね。

古葉 憧れの神宮球場でチーム・学校が一体になれました。これからも「耐えて勝つ」の精神の下、野球の神髄を伝えていきたいと思っています。

区長 今の古葉監督があるのは、心から野球が好きだからですね。

古葉 本当に野球しかしていませんけど（笑）。でも、これまでの人生を振り返ると、「全てが大学で野球を教えることにつながっていたのだな」という不思議な感覚にとらわれます。

野球が盛んな江戸川区、それを支える大いなる地域力

区長 江戸川区は野球少年がとて多く、学童少年野球チームは現在74チームあります。約2000人の子どもたちが元気に野球に取り組んでいます。シーズンになると、河川敷に子どもたちの歓声が響きます。

古葉 都内でも規模が大きいですね。

区長 一生懸命練習している姿を見ると頼もしいなと思います。当たり前のことですが、野

球をするためには、仲間や場所が必要です。そしてもう一つ大事な要素は指導者ですね。

古葉 そうですね、なくてはならない存在です。

区長 区内で少年野球が盛んなのは、何をにおいても指導者の方々のおかげだと思っています。休日を返上し、炎天下に汗と砂ぼこりにまみれて子どもたちと向き合うのは、「野球が好き」というだけでは到底できるものではありません。

古葉 よくやっていただいているなと思います。指導者だけではなく、審判の方もそうですね。

区長 こうしたボランティアの方々には、奉仕の域を越えた、「野球を通して子どもたちの頑張る気持ちを育てあげたい」という思いがあるのでしょう。野球に限ったことではありませんが、良い指導者、良い環境の下には意欲のある子どもたちが集います。これこそが江戸川区の誇るべき風土であり、こうした環境が青少年の健全育成に、より多くの実りをもたらすことになるのだと思います。

古葉 そのとおりです。私も大学の監督を引き受けてから、勝てるチーム作りとともに、野球を通しての人間形成に力を注いでいます。野球だけやっていればいいなんてことは絶対にありません。グラウンドの中でも外でも、周りの人の役に立ち、尊敬されるような人間に成長してほしいと思いますし、小学生、中学生、高校生の手本であってほしいと思っています。

「豊かな心」「健やかな体」「未来に羽ばたく人材」をスポーツで育む！

区長 いよいよオリンピック・パラリンピック競技大会が、今年はリオデジャネイロ、4年後には東京で開催されます。東京大会では、野球・ソフトボールが追加種目候補に挙がっています。現在、日本の野球も世界的に認められて、メジャーリーグで活躍する選手も多くなりました。昨年の日本代表「侍ジャパン」の活躍も、世界に強烈なアピールをしました。正式種目になれば、ますます野球界が盛り上がりそうですし、子どもたちの夢も広がりますよね。

古葉 「オリンピックに出たい！」「プロ野球選手になりたい！」という気持ちを持って野球に取り組む子どもたちが必ず増えます。江戸川区からも、プロになれる子どもたちがたくさん出てくれたら、こんなにうれしいことはありません

んね。

区長 江戸川区でも最近、野球に関する明るい話題がありました。昨年、夏の甲子園大会で、関東第一高校が初のベスト4に輝きました。中でも、走・攻・守で活躍した同校のオコエ瑠偉選手が、プロ野球チームの東北楽天ゴールデンイーグルスに入団しましたね。

古葉 そうでしたね。オコエ選手はドラフト1位の入団。すごいことです。

区長 こうしたうれしい話題が、今年もたくさんあるといいですね。古葉監督には、少年軟式野球国際交流協会の理事長として、野球を通して子どもたちの健全育成にご尽力いただくとともに、大学の監督としてプロ野球界に優秀な人材を輩出してもらえと思っています。少子化の時代ではありますが、野球に一生懸命に打ち込み、心身共に成長していく子どもたちもたくさんいますので、これからもいろいろとご指導いただき、夢や希望が持てる道筋を作っていただければと思います。

古葉 私が野球を通じて学んだのは、「野球はチームスポーツであり、みんなで目標に向かって、楽しみや苦しみを分かち合い、支え合いながらやっていくものだ」ということです。それに、小さいころから野球に取り組んでいると、礼儀や集団行動など、社会で生きていく上で大切なことが自然に身に付いていきます。今の私があるのは、野球に巡り合えたからです。80歳を目前にした今でも、こうして大好きな野球を続けていられることに感謝するとともに、自分を育ててくれた野球に恩返しをしたいと思っています。

区長 今後のさらなるご活躍を祈念しています。本日はお忙しいところ、大変貴重なお話をありがとうございました。

古葉 こちらこそ、ありがとうございました。



「これからも、自分が学んだ野球について、野球が好きな人たちに支援してくれる皆さんに、さまざまな形で伝えていきたい」と語る古葉監督

夜間・休日急病診療

受診の際は、健康保険証などを持参してください

江戸川区医師会夜間・休日急病診療所（小児科・内科のみ）

診療時間 毎日21時～翌朝6時・日祝9時～17時 ☎5667-7775
診療場所 西瑞江5-1-6（江戸川区医師会地域医療支援センター内）
※応急処置のため、薬の処方是最小限となります。

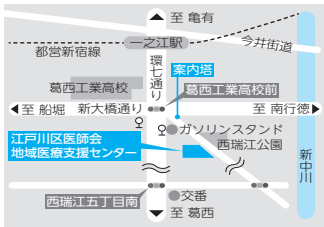
医療機関のご案内

- 江戸川区医師会休日診療テレホンセンター（日祝9時～17時） ☎・☎5667-7557
- 東京都保健医療情報センター「ひまわり」（24時間） ☎5272-0303／☎5285-8080
- 東京消防庁救急相談センター（24時間） ☎7119／ダイヤル回線 ☎3212-2323

1月4日月まで 夜間・休日急病診療所（小児科・内科のみ）

診療時間 9時～17時、21時～翌朝6時
場 江戸川区医師会地域医療支援センター（西瑞江5-1-6） ☎5667-7775

※掲載されている電話番号をよくご確認ください。夜間は特に、電話のかけ間違いにご注意ください。



1月4日月まで 江戸川区歯科医師会休日歯科応急診療所（要予約）

診療時間 9時～17時（受け付けは16時30分まで） ☎・☎3672-8215
診療場所 東小岩4-8-6（江戸川区歯科医師会館内）

えどがわ区民ニュース 新春1月号放映中！

新春対談 耐えて勝つ 大いなる夢・希望に向かって

CATVで放送中！

◎J：COM江戸川 11チャンネル
（※9時から／12時から／20時から）
※曜日・時間で番組内容が異なります。

えどがわ区民ニュース
ホームページでもご覧
いただけます。
（スマートフォン対応）



問 DVDなどの貸し出し・申し込み⇒映像広報係 ☎5662-6167

休日急病当番医（急病のみ、往診不可） 診療時間9時～17時

小 小児科 内 内科 眼 眼科 耳 耳鼻咽喉科 ※外科は、救急病院をご利用ください。

1月2日	小	アンヌ小児科	東松本1-14-9	☎3672-1071
	内 小	辰巳内科消化器科クリニック	一之江7-35-22	☎5678-5115
	内	渡辺クリニック	南小岩5-20-15	☎3657-6284
	内	田中医院	平井6-30-1	☎3612-3352
	眼	井出眼科クリニック	篠崎町7-27-23	☎3676-3333
1月3日	耳	すぎやま耳鼻咽喉科クリニック	西小岩1-23-2	☎5622-3355
	小	のりこ小児科医院	篠崎町4-32-15	☎3670-9211
	内 小	久田医院	平井1-27-7	☎3681-0081
	内 小	辰巳内科消化器科クリニック	一之江7-35-22	☎5678-5115
	内	北澤耳鼻咽喉科医院	西小岩3-32-13	☎3673-8733
1月4日	眼	井出眼科クリニック	篠崎町7-27-23	☎3676-3333
	耳	北澤耳鼻咽喉科医院	西小岩3-32-13	☎3673-8733
	小	はるえ子どもクリニック	春江町2-33-15	☎6638-8939
	内 小	清新北診療所	清新町1-4-1	☎3878-3001
	内	笹川胃腸科内科	南小岩8-14-1	☎3672-3150
1月10日	内	高野医院	篠崎町4-12-12	☎3670-7550
	眼	井出眼科クリニック	篠崎町7-27-23	☎3676-3333
	耳	浅井耳鼻咽喉科医院	東瑞江1-27-5	☎3698-8741
	小	ほしの婦人科小児科クリニック	南小岩3-28-1	☎5612-2205
	内 小	杉山医院	松島2-28-6	☎3653-2022
	内	青木クリニック	宇喜田町1039-1	☎5878-3063
	内	西葛西クリニック	西葛西4-2-75	☎3686-5555
	内	岩井整形外科内科病院	南小岩8-17-2	☎5694-6211
	眼	平井徳久眼科	平井4-7-16	☎3683-2721
	耳	今井耳鼻咽喉科医院	平井3-22-22	☎3681-2887

休日応急当番接（整）骨院（施術時間9時～17時）

1月2日	なめき接骨院	西葛西5-10-14	☎5696-2844
	やまぐち接骨院	西小岩1-21-16	☎3659-9375
1月3日	山口整骨院	一之江4-1-33	☎3651-4079
	北小岩ヤマグチ接骨院	北小岩8-2-16	☎5668-1061
1月10日	まつえ接骨院	松江1-15-11	☎3656-9518
	中川整骨院	西小岩5-9-12	☎3658-3019